## ●教区代表者会議とは

教区代表者会議とは、①教区共同体の全体の善益のため、②教区司教を助けることを 目的とする代表者(司祭・修道者・信徒)の集会(諮問機関)のことをいう。

約2000年のキリスト教の歴史の経験と知恵に基づいて形成された教区(部分教会)を統治するための内部機構が「教会法典」(第3部参照)で定められています。その一つに「教区代表者会議」という機構があります。

この教区代表者会議(教会法典第 460 条参照)は、①教区共同体全体の善益のために、司教の発意によって招集され、②教区司教を助けることを目的とする代表者(司祭・修道者・信徒)の集会のことで、教区司教のための第一位の諮問機関です。

教皇フランシスコの呼びかけに応えて福音宣教を推進していくために、広島教区の白浜司教は、教区内の全小教区で、2019 年 10 月 20 日に「福音宣教の特別月間ミサ」を一斉におこなうように要請し、そのミサの中で、2020 年 11 月 23 日 (→後日 1 年延期の措置が取られた)に、「ともに喜びをもって福音をのべ伝える教会へ」を総合テーマとする「教区代表者会議」を招集することを宣言しました(「広島司教区本部事務局からのお知らせ」2019年 10 月号、カトリック広島教区報第 122 号、「『2020 教区代表者会議』に向けて」第 1 章参照)。

2020 教区代表者会議を開催する目的(司教諮問事項)は、①これまでの「教区のあゆみを振り返る」、②それをもとに「教区創立 100 周年(2023 年)」以降の教区全体の目標や優先課題を考えるというおもに二つのことです。なお、当初「『教区創立 100 周年(2023 年)』の迎え方・祝い方を考える」ことも開催の目的の一つにされていましたが、これについては、教区代表者会議ではなく、別の会議で検討することが決定され、開催目的から外された経緯があります。

2020 教区代表者会議の開催は 1 年延期されましたが、「ともに喜びをもって福音をのべ伝える教会へ」を中心テーマに据えて、白浜司教が「教区創立 100 周年 (2023 年) 以降の教区における宣教司牧の優先課題や目標を策定すること」を助けるために開催する会議であることに変更はありません。それと同時に、教区代表者会議の準備の途上で、これまで潜在化していた宣教司牧の課題が浮き彫りになったことの事実も、一つの成果と考えることができるのではないでしょうか。

<2020 教区代表者会議についての詳しいことは>

2020年1月16日発行の「『2020教区代表者会議』に向けて」をご一読ください。

以上